

第1回 船舶によるバイオ燃料取扱ガイドライン策定検討会 議事概要

検討会概要

【日 時】：令和4年7月27日（水）15:00～17:00

【場 所】：AP新橋 Kルーム（WEB併用）

議事内容

○国土交通省海事局から説明

- ・議題1 船舶によるバイオ燃料取扱ガイドライン策定検討会の開催趣旨
- ・議題2 IMOにおけるバイオ燃料に係る審議動向
- ・議題5 全体スケジュール案

○高橋座長（海上・港湾・航空技術研究所）から説明

- ・議題3 技術試験の方向性について

○事務局（みずほリサーチ&テクノロジーズ）から説明

- ・議題4 バイオ燃料ガイドラインの目次案等について

○主なご意見

以下のような意見を踏まえて、実証試験を進めることとなった、

- ・ 今回の試験におけるデータの取り扱いをどうするのかという点を考えておいた方がよい。
- ・ BDFの燃料性状項目について、酸化安定性と低温流動性がトレードオフになっていると思うので、各工程でトラブルの有無のような評価軸ではない方がよい。
- ・ FAME化しない廃食油としてSVOも燃料油として可能性があると考えている。現在の試験方案ではFAMEと低硫黄C重油の混合油を使用することとなっているが、SVOと低硫黄C重油の混合油の試験も行うことはできないか。
- ・ 混合率が何%までなら安心して使用できるのかといった試験を行ったほうがよいのではないかと。
- ・ FAMEは製造された地域や原料によって性状にばらつきがある点に留意すべき。
- ・ バンカリング船からバイオ燃料を供給する際の方法によってムラなどができないのか。
- ・ 船舶向けの燃料供給は陸上とは違う特徴があるので、品質をどこで見ていくのかという点を議論する必要があると考えている。
- ・ バイオディーゼル市場の概観や価格・供給量の見込みに関しては経年で変更が発生しうるものであり、本編ではなくアペンディックスに入れ、経時的に改訂を加えたほうが良いのではないかと。
- ・ 実態としては事業者の方で調達燃料を決めてからエンジンメーカーに引き合いや相談が来ることがほとんどであるため、エンジンメーカー等との協議に関しては、ガイドライン上で「船用バイオ燃料使用に向けた準備・対応」の項目に含めた方がよいのではないかと。
- ・ 「検査機関に依頼する燃料分析評価項目の選択」とあるが、燃料種によってどの項目が必要になるのか違ってくると思われ、購入する燃料によって特に気を付けなければならない項目などを整理することになる。数値として示せる項目と定性的な記載になるものが出てくるのではないかと。
- ・ バイオ燃料は従来の燃料と比べ硫黄分が下がるので対応した潤滑油も変わることが想定される。

以上